

総合テーマ 『日本“再”理解』（観光、環境、言語、民俗の視点から）

愛国学園大学では令和3年度から「日本理解」という専攻を設けました。日本に住む外国籍の方が増加する中、日本について改めて理解し、発信する狙いがあります。令和4年度の四街道市民大学講座では、その「日本理解」専攻所属の教員が、第1回と第2回は地域と観光との関係や商品としての旅行、第3回と第4回は長期にわたる公害問題から考える環境、第5回と第6回は世界の言語のひとつとしての日本語、そして第7回と第8回は日本の四季に基づく生活と行事に関わる暦法、という視点から、私たちの大多数が生まれてからこれまでの間、何となく知っているつもりで捉えている日本について「再考」し、「理解」しようという講座をご用意致しました。

（受付）9：30～ （講義）10：00～11：30

回	日程	内容	講師
閉講式 9：30～（受付 9：00～）			
1	R4/12/3 (土)	観光の効果と必要性～観光が地域にもたらす影響～ 観光は、その経済波及効果の大きさから、日本に経済力を取り戻させる重要な成長分野であると考えられています。また、雇用機会の増大や地域活性化、さらに文化交流や相互理解などにも寄与しています。一方、観光客の増大によるデメリットも課題とされており、双方の観点から観光が地域にもたらす影響について考えます。	羽田 利久 教授
2	12/24 (土)	旅行会社の成り立ちと役割～旅行商品の仕組みから旅行の選び方を考える～ 産業革命により蒸気機関車が出現し人の大量輸送を実現したことから、団体旅行という考え方が発生しました。旅行会社の成り立ちを振り返りつつ、現在の旅行会社の役割や実態を確認します。消費者が購入している旅行形態にどのようなものがあるかを知ることにより、旅行を選ぶ際に意識することを学びます。	
3	R5/1/14 (土)	公害を改めて考える①～イタイタイ病 四大公害病というと、「成長優先」だった高度成長期の時代に特有の出来事と捉える向きが多いかもしれませんが、しかし、そのタイムスパンはもっと長いのです。イタイタイ病は、1912年に始まり、最終解決は2012年という「百年公害」です。その背景と歴史（経緯）を改めて振り返ることで、日本再理解の一コマを提供したいと思います。	梶原 健嗣 教授
4	1/28 (土)	公害を改めて考える②～水俣病 水俣病というと、初期に見られた激甚患者を中心に、高度成長期の公害病という印象を持っているかもしれませんが、しかし水俣病も、そのタイムスパンはもっと長く、その後も「水俣病とは何か」という病像論が争われ、現在もノーモア・ミナマタ第2次訴訟が係争中です。現在も終わらぬ水俣病もまた、日本再理解の有益な一コマとなるでしょう。	
5	3/4 (土)	日本語ってどんな言語？ 日本語は母語であるため、特に意識することもなく使用しています。しかし、日本語とはどんな言語か、その特徴を説明するとなるとどうでしょう？「知っているけど知らない」のが母語、私達にとっての日本語なのです。本講義では、音声、語彙、構文、談話といった様々な観点から日本語の特徴を探り、世界に数多く存在する言語の一つとして客観的に捉えます。	部田 和美 准教授
6	3/11 (土)	外国語としての日本語を考える 前回確認した日本語の特徴を前提として、日本語を外国語とする「非母語話者」の立場で日本語を見つめます。彼らが日本語を学習する際、何を重視し、何に難しさを感じ、またどのような間違いを犯すのか。日本語教育の観点から外国語としての日本語を考え、理解を深めます。	
7	3/18 (土)	日本の暦と年中行事 暦の語源は「日読み（かよみ）」といいます。初回は、太陰太陽暦（旧暦）と新暦（太陽暦）の四季との関係について、歴史的な観点も取り入れて概説します。更に、気象予報でたびたび言及される二十四節気と七十二候、そこには入らない季節の節目、雑節と節句についてその由来や行事を知り、日本の四季を再発見しましょう。	伏見 親子 教授
8	3/25 (土)	干支と暦注 暦注とは、暦の中の注。今日は〇〇の日ですよ、と知らせるもので、それに干支が絡んで、旧暦は作成されています。年賀状を書く段になると登場する干支とは、正確には十干十二支のことで、太陽暦採用以前、十二支は歳だけではなく時刻、方位にも使われていました。それらの見方と、大安、友引など暦注による日の吉凶についても考察します。	
閉講式 11：45～12：00			